



全難聴便り

発行：事務局 〒162-0066
東京都新宿区市谷台町14-5 MSビル市ヶ谷台1F
編集：全難聴事務局
電話：03(3225)5600
FAX：03(3354)0046
URL：<http://www.zennancho.or.jp>
E-Mail：zennacho@zennancho.or.jp

地域活動重点特集

高松市手話通訳市外派遣拒否裁判 第2回弁論を傍聴して

香川県中途失聴・難聴者協会会長 湯浅はるみ

第二回目の口頭弁論の日が、最初の4月30日の公判から4か月後の、9月30日でした。その間に、原告（池川洋子さん、原告訴訟代理人弁護士安西氏 他34名）から高松裁判所へ準備書面による提出が5月15日、8月27日に行われ（約75頁）、被告（高松市）からは5月30日、9月10日（約23頁）提出されたそうです。

1時から高松地方裁判所法廷前に集合ですが、地元も含め県外から来られた方も多く、廊下の行列の指定線からはみ出るほどの人数で汗ばむ位の熱気でした。弁論が始まるのは2時半からで、入廷は30分前です。磁気ループが設置されている席に案内され、座ったものの、難聴者は私と愛媛の越智さん2人だけです。

口頭弁論が始まる15分位前に「磁気ループの音がわかりますか」の弁護人から聞かれましたが、ブーンと雑音が入ってマイクの音ははっきりしません。何度かいじってもらったと大きくなりましたが、私では音が大きくなるばかりでした。私のような重度難聴者ではなく、補聴器で人の声を聴くことができる方にぜひ傍聴して欲しかったです。

次回は傍聴者が入廷する前に、補聴器のTコイルを使ってテストしてもらうようお願い

いしておこうと思います。弁論が終わった後記者会見があって、記者から、「システムの音が小さかったのか」と聞かれ、うまく説明できなくて、せっかく配慮いただいたのに、私のような重度難聴だと、その効果を十分体感できず、残念な気持ちになりました。

裁判所でも磁気ループが置かれているけれど、どのように使うのかどういうシステムなのか知らない人が多いので、磁気ループのPRの必要性を感じます。

パソコン要約筆記が一番後ろの席で2人体制で入力します。神奈川県から盲ろう者協会の川島さんも傍聴に来られていましたが、今回は、触手話だけでなく、パソコン要約筆記が見られるようノートパソコンの持ち込みが認められたそうです。少しずつ情報保障の環境が改善されてよかったです。

手話通訳は、今回は原告池川さんと、聴覚障害の弁護士田門さん（読み取り通訳）、傍聴者のために3人の手話通訳が立ちました。今回は傍聴席の中央に立っていたので、3人の裁判官が見えませんでした。1回目の公判の時は端の右側に立っていたのですが、左側の壁にOHPやプロジェクターの2つの投射があるため、少しでも見やすいように真ん中に寄ったかもしれません。

弁論というと、テレビドラマのように原告代理人と被告代理人のやりとりがあると思っていたのですが、実際は池川さん原告代理人の意見陳述だけでした。民事訴訟は書面で進めることもできると今回初めて知りました。



- ① 手話は言語である、手話通訳の派遣を拒否するのは手話を言語として生きるろう者が個人として生きること否定する、
- ② 障害者基本法の趣旨に沿って施策を進めるべきだ、市の派遣却下処分は本件だけでなく、数多くの却下した実態がある、
- ③ 今回の却下の理由は区域外であることだが、実際の負担は5000円程度で市の財政規模からみるとわずかなもの、
- ④ 専門学校は教育体系上必要な地位にあるのに、派遣対象を限定するのは違反、厚生労働省の基準よりも狭い…などなど。

市からの意見がないままに閉廷、予定より早い終了時間でした。次の公判は12月9日、午後2時半からになるそうです。

3回目は市への尋問と、池川さんが手話通訳と一緒に説明会を受ける様子と通訳

なしで、何も情報が入らないまま説明会を受ける様子を撮ったビデオを放映して裁判官に見ていただく予定という話でした。

裁判への要約筆記派遣は、国から公費で補助してもらえると聞きましたが、手話通訳の公費派遣はまだ認められていません。同じ聴覚障害を持つ立場なのに、この情報保障の差別化はどのような理由でそうなるか不思議でなりません。

この裁判はあと何回で結審するかはわかりませんが、行政に障害者基本法をきちんと遵守してもらうためには、当事者が訴えていかなければ今の市の要綱が変わらないし、要約筆記派遣も深く関わりある裁判なので、次回はできるだけ多くの難聴者にも傍聴してもらうよう呼びかけていこうと思います。

👉 第15回 関東ブロック女性部一泊研修会「新潟の集い」報告

新潟県難聴者協会会長 大会実行委員長
大西邦子

10月5日～6日、新潟県長岡市で標記研修会が開催されました。

昨年からブロック研修会は全国の女性会員が自由に参加できることになったため、遠くは山口県、そして関東地域の1都7県2市から55名の参加でした。東日本大震災より、



災害に対する関心が高まっています。研修会テーマは「災害から身を守るために～中越地震に学ぶ～」に決め、平成16年の中越地震からみごと復興した山古志を見てもらうことにしました。講師は山古志の復興をめざし、NPO 法人中越防災フロンティアを立ち上げて活動されている方々に依頼しました。

◆講演「中越地震から復興までの道のり」

講師：NPO 法人中越防災フロンティア相談役 青木 勝氏

◆ワークショップ「どうする！？あなたの地域の防災力向上」

講師：NPO 法人 中越防災フロンティア事務局 木村浩和氏

協力：中越防災安全推進機構 防災力センター長 諸橋和行氏

小さい集落では、地域の結びつきが役立った。公の救助を待たず自分たちでできることを、すぐに実行した。その救助活動で助かった命もあった。自主防災組織と防災訓練は大事。普段から災害を想定した心構え、準備が必要。そして災害が起きたら、先ず自分の身を守ること。

具体的なお話に、「帰ったら早速、準備したい」との声がきかれました。

研修会後は蓬平温泉よもやま館に移動して、山の幸のご馳走を堪能し懇親会を楽しみました。翌日は山古志の観光。先ずは被災当時の状況をビデオで見ることから始まり、前日の講師、木村氏をガイドに山古志の復興した姿を見てもらいました。有名な山古志の闘牛（角突き）見物はむりでしたが、特別な計らいにより闘牛場で先輩牛が後輩牛に訓練する場を見せてもらいました。巨体の牛に触り、みなさん興奮さみでした。復興事業の一環であるアルパカ牧場も見学し、愛らしいアルパカに癒されました。その後、歴史ある酒造の見学と盛りだくさんの行程でしたが、コンビニが一軒もなく信号は学校の教育のために学校前に一機のみという、中山間地の環境は都会の人たちには、新鮮に映ったのではなかろうか。

山古志の風物もお土産になったかなと思いつつ、帰路につく皆さんをお送りしました。

👉 平成25年度全難聴・全要研東北ブロック大会

事務局長 佐野 昇

東北ブロック大会が28日～29日 福島県福島市飯坂温泉ホテル聚楽にて東北各県から138名ほどの方々が参加され、盛大に開催されました。

準備を担当した福島県協会の役員会員の皆様にはお疲れ様でした。

1日目は全要研東北ブロック長の福島県支部の丹治様より東北各県の要約筆記事業に関する基調報告と今後の取り組みについて発表いただきました。佐野からは3月27日の要約筆記者派遣モデル県・市町村モデル派遣実施要綱について、障害者総合支援法との絡みも含めて説明させていただきました。

瀬谷様からは、要約筆記観に対する、これまでの総括と、今後の東北各県での展望等を発表いただきました。

懇親会は平成11年開催の全難聴福祉大会宿泊懇親会場であり、開会にあたってはホテル女将さんの挨拶やら、料理の説明などいただきました。また、司会者は福島県協会の若手人工内

耳装用の男女がユーモアあふれる進行ぶりに拍手喝采でした。余興では福島県協会郡山支部のみなさんのひょっとこ踊りに、男女の別なくお面をかぶりステージ・会場、ところ狭しと踊りを披露いただき好評でした。2次会もホテルに準備されて、遅くまでカラオケや交流で夜がふけるのも忘れ楽しみました。



2日目は、午前中、佐野が補聴援助システムの説明と活用のポイントについて発表し質疑応答も含めて時間が足りないほど熱心に参加いただきました。また、岩手県協会佐々木理事

長や工藤ブロック長からも11月の岩手での要約筆記事業研修会への参加を呼びかけていただきました。

ブロック大会では、大変地元実行委員会の皆様にお世話になりました。私にとってもとても楽しい時間、充実の2日間でした。ありがとうございました。

📌 理事の動き（10/1～10/31）

- 10月11日 共用品推進機構、旅行に関する「良かった事」機関横断調査委員会（小川）
- 10月13日 兵庫県難聴者の集い（高岡）
- 10月14日 千葉県協会講演会（高岡）
- 10月16日 JDF 企画会議（佐野）→台風の為延期
- 10月20日 千葉市協会 20周年記念大会（小川）
- 10月21日 視聴覚関連4団体会議（高岡）
- 10月22日 放送・バリアフリー委員会（高岡、小川）
- 10月22日 災害時の障害者避難等に関する研究委員会（小川）
- 10月31日 JDF 幹事会（新谷）

📌 事務局報告

- 10月11日 JD アンケート調査説明会
- 10月16日 統一試験説明会
- 10月21日 視聴覚関連4団体会議
- 10月31日 全難聴便り No. 65 発行

《予定》

- 11月7日 情報文化センター第2回評議員会
- 11月9日 日本まちづくり学会シンポジウム
- 11月15日 聴覚障害者中央本部拡大会議
- 11月16日 全難聴理事会（東京にて）
- 11月23日～24日 第3回要約筆記事業研修会
- 11月26日～27日 兵庫県補習研修（佐野）
- 11月29日 全難聴便り No. 66 発行

千葉市中途失聴・難聴者協会設立 20周年記念大会にて（小川理事報告）

10月20日、千葉市療育センターで千葉市中途失聴・難聴者協会設立 20周年記念大会開催され、約100人が参加。平岡会長を中心に、会員や要約筆記者等が協力してなごやかに式典が勧められました。式典では千葉市内に2,000人以上いるという中途失聴難聴者がより積極的に社会参加できるよう、明るい灯となるようにしていきたいとあいさつ。近隣の難聴者団体からの参加や、関係団体から祝電が10通以上届くなど、結びつきの強さを感じました。

講演は大阪市協会会長の宇田二三子さん。「中途失聴・難聴者として生きる私」と題しての講演が参加者に感動と勇気を与えていました。